

兵庫太和税理士法人事務所見学会開催報告

～兵庫太和税理士法人のビジネスモデルを大公開！～

平成27年11月10日(火)15:00～17:00

TKC全国会「TKC会計人の新成長戦略2021」の活動テーマの1つに「TKC会員事務所の総合力強化」が挙げられています。事務所の経営環境が厳しさを増す中、事務所の存続・発展のために生産性を高めると共に、高い業務品質で関与先、金融機関、税務当局からの信頼を高めることがますます重要になっています。こうした環境の中、巡回監査とKFSの実践を通じて業務品質と経営効率の向上を実現し、TKC会員事務所のビジネスモデルの構築を図ることで着実に成長・発展されている兵庫太和税理士法人事務所見学会が開催されました。今回は事務所総合力強化に向けて積極的に実践されている吉田正之代表より、具体的な取り組み内容を公開して頂きました。

1. 所内体制の構築事例(事務所総合力を高める組織作りとは?)

①所内の組織体制、組織の特長

昭和53年に開業、すぐにTKCに入会、平成21年5月法人設立。昨今の社会情勢の変化にともなう法改正に対応するには個人では限界を感じ法人組織を考えた。現在5事務所あり独立採算である。ランチエスター戦略に基づき都市部中心に支店展開中。元は5人とも所長ということで、組織の意思統一のため会議を徹底的に行っています。

②職員のモチベーション向上に向けた取り組み

事務所の職員には等級制を設けている。TKCの研修体制に則って、初級研修、中級研修、上級研修合格が等級昇格要件の一つ。勤務年数だけで給与は決めておらず、中級研修合格すればまずまずの監査は出来るということから中級研修合格が基準としている。給与体系と評価制度は一体であるべきである。評価時期は定期的ではなく必要に応じて実施。

③職員の育成・教育体制

職員のスキルアップのために教育していく。技術的なことはTKCで、社会人として基本的なことは事務所内で教育。事務所の改革・改善は常に行っていく必要がある。マイナンバーの関係で、職員の初期指導力の重要性を感じており、職員に経理業務フローを作成させ事務分析を実施。結果はOMSのCDBへ入力、落とし込みデータベース化を行っている。

④所内のPDCA体制

経営計画は各営業所が事前に関与先毎の報酬を事前に集計したデータを持ち寄り、全体ですりあわせ、営業所別、関与先別集計リストに基づき、業績予測を行い、目標を決定する。業務改善に関しては職員一人一人が計画を作成し提出。以後週毎に進捗管理行う。主なチェック項目として、翌月巡回監査、自計化、継続MASの進捗状況のチェックを月曜日の所内会議で行う。

⑤最近の取り組み

社会福祉法人会計基準の改正に対応できるよう積極的に取り組んでいる。最近の仕事の棚卸しを行っており、現行のチーム制構築の問題点、業務が増えることに対して職員にどう納得させるか課題である。一人では限界があるので事務所独自作成の決算チェックリスト(近税会とは異なる)、決算管理工程表の見直しに取り組んでいる。



2. すぐに役立つ！実践トーク集（企業経営者に対する説明話法を公開！）

【新規顧問契約時】

新規顧問契約にあたり、TKCの自計化システム利用が前提です。今までご利用されたY会計の継続利用を希望されるなら契約しません！なぜなら当法人の考えているサービスが提供できないからです。(業務サービスについては業務案内を使用しご説明、料金体系についても事前に作成したものを提示、また商工会議所、小規模企業者の助成金申請等のサービスもご紹介。TKCシステム(FX2+PX2)導入により、関与先とのパイプが太くなる。)

【巡回監査の実施】

基本は毎月巡回監査させていただきます！(うちは毎月来てもらうのはいいからといわれたら、毎月見ないと忘れてしまいますので毎月です。現在巡回監査率は90%で推移しています)

【FX2シリーズ導入】

今までご利用されたY会計の継続利用をどうしても希望され、FX2導入しない場合は顧問料が高くなります。Y社はデータがPCにしかなく(センター処理が一切ない)データ破損時の不安あります。またY社は部門と補助科目の区分けがないので、本来の部門管理は出来ません。

【書面添付の実践】

まずは毎月巡回監査させていただき、書面添付も行います。御社の金融機関からの評価もあがり、税務調査もなくなります。

